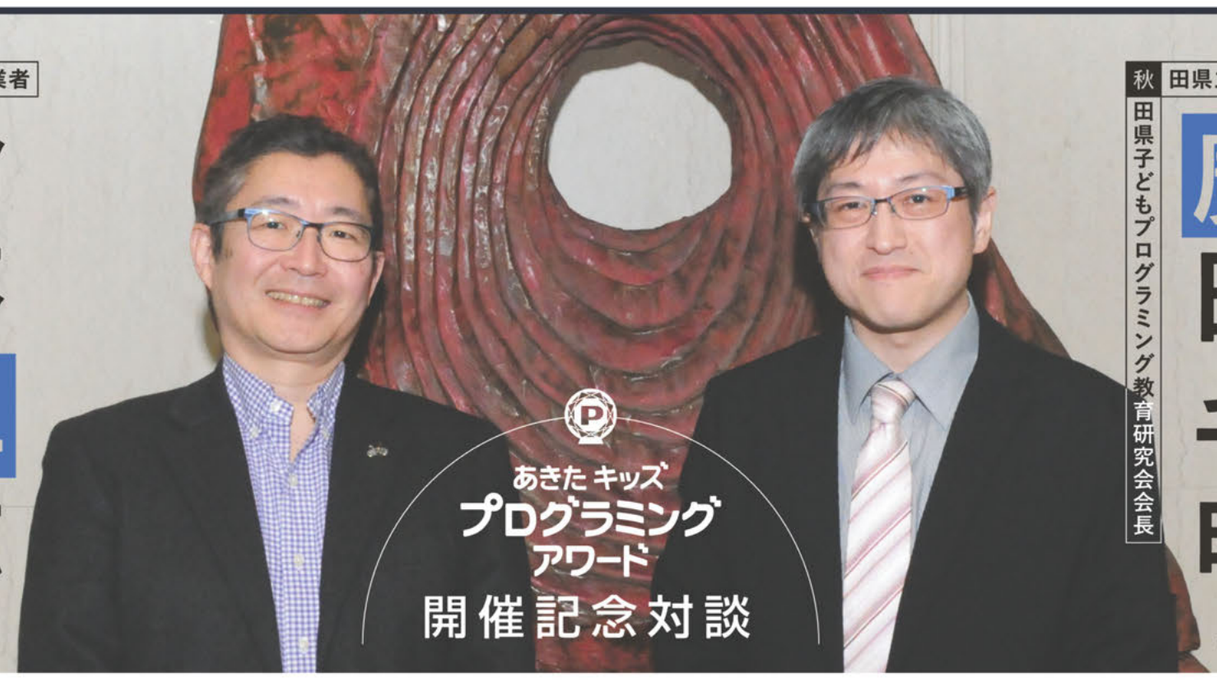

あきたキッズ プログラミングアワード 開催記念対談

プログラミングと起業では「人と違う」ことに価値あり

秋田県立大准教授
秋田県子どもプログラミング教育研究会会長
廣田千明氏

ユビキタス創業者
ユビキタスAIコーポレーション・フェロー
鈴木仁志氏

この4月から本格実施される新学習指導要領により、小学校でプログラミング教育の必修化が始まる。国は4年以内に、すべての小中学生に1人1台ずつIT端末をそろえる方針を打ち出した。AI、ビッグデータ、5Gなど、IT（情報技術）、ICT（情報通信技術）は目まぐるしく、そして飛躍的に進歩している。そんな時代環境の中、プログラミングを学ぶことはどのような意味を持つのだろう。秋田県子どもプログラミング教育研究会会長で県立大准教授の廣田千明さん（47）と、ユビキタス創業者でユビキタスAIコーポレーション（本社・東京）フェローの鈴木仁志さん（61）＝大仙市協和出身＝に語り合ってもらった。2人は5月5日開催予定の「あきたキッズプログラミングアワード」（主催・秋田魁新報社、共催・秋田大、県立大、秋田高専）の審査員を務める。

（聞き手＝さきがけデジタル社長・加藤卓哉）

廣田さんは教育・研究者、鈴木さんは〝元祖秋葉原少年〟のプログラマーで起業家ですが、それぞれプログラミングに触れたきっかけなどについて教えてください。

廣田　最初に触ったのは、MSX2という規格の、ソニーのヒットビットというパソコンです。小学校5年のとき、秋葉原で父に買ってもらいました。私はカープファンの野球少年だったので、MSXベーシック（言語）で選手ごとの成績管理プログラムを作り、新聞を見ながら投打のデータをこつこつ入力していました。

鈴木　お買い上げありがとうございました（笑）。MSXベーシックのインタープリター（解釈実行プログラム）を作ったのは私です。ヒットビットは松田聖子がCMをやっていましたよね。『人々のヒットビット♪』と、だじゃれCMソング歌って（笑）

廣田　えっ、鈴木さんが作ったんですか!? 35年後こんな所でお会いするなんて！　おかげで楽しみながらプログラミングを学びましたよ。

鈴木　私は開業医の息子で、医学部に行くものだと思い込み志望校も決まっていたんですが、高3の夏休みのある日、ふと『一生人の体をいじって生きていくのは何か違うな』と違和感を持ちました。小中高とハンダごてを握るラジオ、アマチュア無線少年だったので、電気と機械いじりで生きていこう、好きなことしかやりたくない、と思ってしまったのです。方針転換して工学系に進み上京した直後、18歳でプログラム可能な電卓に出会います。まったくの独学で乱数検定法プログラムなどを作って遊んでいました。

そんな少年たちは、その後どのように歩んでいくのでしょうか。

廣田　大学は数学科でしたが、授業でパスカル（言語）を学び、面白くて毎日遅くまで学校に残って勉強していました。大学院は情報科学研究科で、フォートラン（言語）やC言語を学びました。プログラミングを専門的に学んだだけでなく、大学のネットワーク管理を業者ではなく私たち学生がやったりするなど、実践でも楽しみながら学んでいましたね。

鈴木　私は大学にはまったく行かなくなり、秋葉原のHAL研究所という梁山泊のようなところにたむろしながら、岩田聡君（当時東工大生、後に任天堂社長）や松岡聡君（当時東大生、現東工大教授）たちとプログラミングしているか麻雀しているかのどちらかでした。毎朝起きると、だれかが夜中のうちにすごいゲームやハードウエアを作り上げている、そんな日々でした。

鈴木さんはマイクロソフトの創業者ビル・ゲイツさんと一緒に仕事をした経験があるそうですね。

鈴木　タンディM100という世界初のハンドヘルド（持ち運び型）コンピュータのシステム開発を任され、82年にベルビュー（米ワシントン州）のマイクロソフト本社に行きました。ビルが作ったマイクロソフト・ベーシック（言語）は、HAL研究所時代に逆アセンブル（解析）してソースコードはほぼすべて把握していました。ビルの書くコードは無駄がなく美しいんですよ。そういうわけで私はどこに何が書いてあるか頭に入っていたので、次々と機能を追加していきました。これにマイクロソフトの連中は驚いて、ビルも私に一目置き、中心的開発者として仕事をさせてくれました。90年代後半には英国バークシャー州のレディングという町で足かけ2年ほどOS開発をしました。ダイアナ妃が亡くなったとき（97年）には、現地で半旗を眺めながら仕事していました。

プログラミングを学ぶと論理的思考の大切さがよくわかる。

鈴木　仁志氏

ユビキタス創業者、ユビキタスAIコーポレーション・フェロー。58年大仙市協和生まれ、秋田市育ち。秋田高理数科卒後、東京大理科一類に進学。同大在学中プログラミングに熱中、6年間在籍し中退後はプロのプログラマーに。01年株式会社ユビキタス創業、07年東京証券取引所ジャスダックNEO市場第1号企業として上場。自ら開発した「ubiquitous TCP/IP」というネットワークOS（家電品やゲーム機などに搭載する基本ソフト）は世界最小、最軽量、最速とされ、1億5千万本以上を出荷した。妻、愛犬と東京都世田谷区住。

廣田さんは2年前に秋田県子どもプログラミング教育研究会を立ち上げましたね。

廣田　15年ごろ、小学生向けのプログラミング塾が人気だという報道に触れましたが、このころはまだ、首都圏など都会の話でした。県内では17年後半ごろからでき始めましたが、都会に比べると動きは遅く、場所も秋田市に集中していました。私たちは15年から県立大本荘キャンパスで体験教室を実施してきましたが、20年からの小学校での必修化を控え、県全域でプログラミング教育を発展させる必要があると考えたのです。

秋田大学はじめ県内の他の高等教育機関とも連携し、設立したのが子どもプログラミング教育研究会です。教育法を研究したり、講演会を実施したりすることで、優秀だとされる秋田の子どもたちが、新たなカリキュラムでも遅れを取らないような環境をつくろうと活動してきました。

ソフトウエア開発などIT系の起業、産業発展に秋田は適した場所でしょうか。

廣田　私が秋田に来たのは2001年で、すでにISDN回線でインターネットが使える時代でした。その後、IT環境はどんどん向上し、今や東京と秋田の差はほとんどありません。満員電車に乗らなくていいし、生活環境まで含めればむしろ秋田には優位性さえあると思います。

鈴木　そう、本当に秋田はいいところですよね。ゆったりしていて美人も多くて申し分ない。通信環境さえあればどこでも仕事はできる時代だ、というのはその通りです。しかし、それなのにIT企業はシリコンバレーや、渋谷のいわゆるビットバレーと呼ばれる場所などに集まるのはなぜなのか。世界中等質であればあるほど、リアルな出会いや触れ合いの質が高い場所でなければいい人材や企業は集まらないというのも、もう一面の真実です。秋田には、うまい食べ物と酒のもう一歩先の、若いプログラマーや起業家が来たくなるような、さらなる地域の価値を創ってほしいと思います。

最後に子どもたちがプログラミングを学ぶ意味や心構え、そしてアワードに応募してくれた子どもたちにメッセージを。

廣田　人がやらないことや新しいことをやろうとすると『変な人だ』と言われたり思われたりするけれど、これからの社会ではまったく逆です。人と違ったことをどんどん考えてこれまでにない新しいものをプログラミングで生み出しましょう。最近は『空気を読まないやつはダメなやつ』という雰囲気は子どもたちの間でも強いようだけれど、変な人や新しもの好きが大っぴらに出てきて考えを発表し評価されるープログラミングアワードはそういう場です。コンピュータに使われる人ではなく、コンピュータを使う人になりましょう。

鈴木　天才、できるやつ、といわれる人物を秋葉原時代から何人も見てきましたが、いい意味で空気を読まず付和雷同もしないやつが多かった。優れたプログラムを作ったり、起業して成功したりするには必要な資質です。そのために大切なのが論理的思考です。プログラミングを学ぶと、論理とそれに基づく思考体系がいかに大事かということがよく分かります。論理的思考ができるようになることは君たちに自信を付け、必ず人生の役にも立つでしょう。

これからは新しい価値を見つけられる人が活躍する。

廣田　千明氏

秋田県立大准教授、秋田県子どもプログラミング教育研究会会長。73年大阪生まれ、東京育ち。東京理科大理工学部数学科卒、東北大大学院情報科学研究科博士後期課程修了、博士（情報科学）。01年県立大システム科学技術学部助手、05年日本応用数理学会論文賞受賞、06年から准教授。専門は数値解析、プログラミング教育。18年同研究会を設立し会長に。妻、男女の双子と由利本荘市住。

秋田大学×秋田県立大学×秋田工業高等専門学校×秋田魁新報社

あきたキッズ プログラミングアワード
～未来を変えるのは君だ！～

大会応援キャラクター ぐらむん

あきたキッズ プログラミングアワード
https://akpa.jp/

ゲームや動画などソフトのアイデアを競う
アイデア部門
「誰かのためにつくりたい」と思うもの
小学生～中学生
ファイナリスト 10組 選出

アプリケーションのアイデアと完成度を競う
アプリケーション部門
「秋田のためにあったらいいな」と思うもの
小学生～中学生
ファイナリスト 5組 選出

「あきたキッズプログラミングアワード」とは、秋田県内の小中学生を対象にしたプログラミングコンテストです。
開催目的は、秋田の未来をになう人材育成の場づくりと、プログラミング教育のすそ野拡大です。2020年春から始まる小学校のプログラミング必修化に歩を合わせ秋田魁新報社が県内の高等教育機関、民間企業と連携し実施します。

ファイナル 最終審査
2020年 5月5日（火・祝）（予定）開催
inさきがけホール 秋田市山王臨海町1-1 秋田魁新報社1F

【開催日程について】
当初3月29日（日）に開催を予定しておりました「あきたキッズプログラミングアワード」ファイナル（最終審査）は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、5月5日（火・祝）に開催を延期いたします。
なお感染拡大の状況によっては、ファイナル開催スタイルの変更、または中止の可能性もあります。

観覧自由
入場無料

主催 秋田魁新報社
共催 秋田大学／秋田県立大学／秋田工業高等専門学校
運営協力 秋田コア ビジネスカレッジ
事務局 あきたキッズプログラミングアワード実行委員会
後援 秋田県／秋田県教育委員会／（一社）秋田県情報産業協会／（一社）共同通信社
企画協力 秋田県子どもプログラミング教育研究会 会長 廣田千明（秋田県立大学 准教授）
お問い合わせ ≫（株）さきがけデジタル 秋田市山王臨海町1-1 秋田魁新報社内 TEL.018-896-6733 平日9:00～17:00

私たちも「あきたキッズプログラミングアワード」を応援しています（順不同）

Ubiquitous AI Corporation（株）ユビキタスAIコーポレーション フェロー Jey Suzuki

CNA 秋田ケーブルテレビ

ASM 株式会社アキタシステムマネジメント
株式会社 さわやか倶楽部
SEKISUI HOUSE 積水ハウス株式会社 秋田営業所
秋田銀行
生活応援バンク ろうきん 東北労働金庫
INEX COM パソコン専門店 株式会社アイネックス
ユナイテッド計画株式会社
TANAGOKORO たなごころ整骨院
ZERONIUM 株式会社 ゼロニウム
FUJI xerox 富士ゼロックス 秋田ゼロックス
ITbook
セカイセールスコンサルティング Sekai Sales Consulting

2020年3月27日付秋田魁新報より